

# 宝石学会（日本）ニュースレター

第 18 号 2019 年 10 月

## 評議員選挙のお知らせ

評議員任期は今年末までになっていますので次のスケジュールで選挙を行います。

後日連絡を差し上げますので、ご周知おきください。

- 11 月 5 日 立候補および推薦候補者の受付開始
- 11 月 15 日 評議員立候補および推薦候補者の受付終了
- 11 月 20 日 候補者リストおよび投票用紙の送付と投票の受付開始
- 11 月 30 日 投票の受付終了
- 12 月 10 日 開票、投票結果発表

## 勉強会のご案内

2 年前、勉強会を行いました。今年、久しぶりに開催したく、参加者を募集します。

テーマは、去る 6 月の講演会・総会（@東洋大学）の講演の中から、少し掘り下げて理解したいということで選びました。

次のように 2 回計画しています。

### ○2019 年度第 1 回

日時：2019 年 11 月 8 日 18:30~20:30

場所：喫茶室ルノアールニュー秋葉原店

テーマ：「蛍光スペクトル」

概要：小川日出丸さん（東京宝石科学アカデミー）より励起波長を変えて発光スペクトル（3D 蛍光スペクトル）測定の結果がありました。小川さんより概要をリポートしていただき、それをベースに議論していきます。参加者から他の話題提供もしてもらうことも含めフリートークの時間を長くとりたいと思います。

定員：先着 8 名

参加費：500 円

参加希望者は次に連絡をお願いします。

世話人・連絡先：神田久生（kanda234@ybb.ne.jp または 090-4420-3328）

### ○2019 年度第 2 回

日時：2020 年 1 月日付未定 18:30~20:30

（日にちはまだ予約できないため未定です。参加を受け付けた方々で、後日日程調整したいと思います。）

場所：喫茶室ルノアールニュー秋葉原店

テーマ：「真珠のてり」

概要：このテーマはいままで何度も発表があり、繰り返し聞いていますが、あらためてちゃんと理解したいところです。今年発表された矢崎純子さん（真珠科学研究所）より概要をリポートしていただき、それをベースに議論していきます。可能であれば国際宝飾展（IJT）期間に開き、いろいろな話題のフリートークの時間を長くとりたいたいと思います。

定員：先着 8 名

参加費：500 円

参加希望者は次に連絡をお願いします。

世話人・連絡先：神田久生（kanda234@ybb.ne.jp または 090-4420-3328）

以下補足・・・・・・・・・・・・・・・・

上記の勉強会に関連しますが、情報交換会・交流会を定期的に関ることができるといいな、と思っています。皆様のご意見をお願いします。

日時・場所を固定して定期的に関くことにして、仕事帰り、そのときその場に行けば、会員に会うことができ、お茶（or お酒）を飲みながらフリートークする、というものです。

以前、ジュエリーの展示会で講演会を聞いた時、終了後、個別に質問や名刺交換をしたい人の長い行列を見ました。今、各種講演会やセミナーはたくさん開かれています。個別に聞いたり話したりする機会は足りないような気がします。学会での懇親会でもいつも時間不足を感じます。個別にフリートークできる機会はもっとあってもよいかと思う次第です。

場所としては、御徒町にある店はどうでしょうか。上記のルノアールでもよいし、適当な居酒屋、スポーツバーなども考えられます。テレビ番組で、御徒町には 200 軒もの宝石関連の店があると言っていました。多くの宝石関連の方々が御徒町近辺にはおられると思います。学会会員も何人もおられますが、会員になる可能性のある方も多いと思われ、会員増につながる事が期待されます。もちろん、御徒町に限らず、国内各地でできるとベストだと思います。

（神田久生）

## ジャパンジュエリーフェア 2019 報告

期日：2019年8月28日—30日

会場：東京ビッグサイト

本展示会では、多くの展示のほかに、いくつかのセミナーが行われました。その中には、当宝石学会（日本）の会員の方々が講師として名を連ねており、ぜひとも聴講したいと申込はしておきましたが、最終日しか行くことができませんでした。

初日と2日目には、諏訪恭一さんによる「ジュエリーの価値はどこにあるのか～販売員が理解すべきジュエリーの資産価値～」 「Gemstones From Understanding, Value is Born」という講演がありました。私は、宝石やジュエリーの価値とは何か、ということが頭の中にひっかかっているのです、一度このような話を聴いてみたいのですが、今回も果たせませんでした。

2日目には宝石鑑別団体協議会(AGL)による「鑑定・鑑別のプロに学ぶ、絶対に役立つ最新グレーディング事情」というセミナーがあり、当学会会員の渥美郁男さん(東京宝石科学アカデミー)が登壇されましたが、これにも私は参加できませんでした。概要は次のようなものだったそうです。

「AGL ダイヤモンド委員会からの発表として宝石鑑別団体協議会(AGL)の会員機関では合成ダイヤモンドのグレーディングレポートの発行を行わない事について。天然ダイヤモンドと紛らわしいので、鑑別書に簡易グレードを入れて発行することになったことの説明を行いました。

AGL 真珠委員会からの発表として真珠では宝石鑑別団体協議会(AGL)の会員機関が今年の9月から実施しているアコヤ養殖真珠のグレーディングレポートについてのご案内をしました。

AGL 色石委員会からの発表として昨年の6月にAGLが作成した宝石鑑別ガイドブック(北脇さんが執筆、監修)の御案内と希少石と業界で呼ばれている宝石について。特に最近は大ラジエライト、アフガナイト、ポウドレットなどが鑑別に持ち込まれている現状をご紹介します。」(渥美郁男さん)

私は、3日目は参加することができ、昼前11時に会場に着いて、小竹翔子さん(GIA Tokyo)の講演に間に合いました。会場はすでに満席で追加の椅子にやっと思えることができませんでした。小竹さんの講演タイトルは「合成ダイヤモンドの基礎と最新情報」。内容は、タイトルどおり、合成ダイヤモンドについて基礎から最新事情までを一般向けに分かりやすくまとめたものでした。会場は満席以上で150名くらいはいたでしょう。合成ダイヤモンドは、宝石業界にとっていぜんとして切実な問題であることがわかりました。合成と天然をど

のように見分けるか、というシンプルで基本的な質問もでていました。

山田篤美さん(歴史研究者・美術史家)の講演タイトルは「ビジネスに役立つ(かも?)

真珠の話——令和時代の真珠と万葉集」。万葉集には珠(真珠)の歌がたくさんあり、真珠に関わる歌をいくつか紹介されました。今年、令和になったこともあり、その語源になった万葉集の歌を取り上げられました。万葉集には真珠の歌がいくつもあることから、万葉集を通じて真珠の魅力を伝えるとよい、という提案をされました。「ストーリーブランディング」というマーケティングの言葉もでてきて参考になりました。

こちらの参加者は数十人だったのでしょうか。ダイヤモンドのほうに比べれば少なかったです。目の前の切実な問題でないと集客は難しいのでしょうか。

講演会のほかに、ダイヤモンドの3つのブースを見学しました。CVD合成ダイヤモンド、カラーダイヤモンド、ダイヤモンドのユニークなカット。いずれも楽しめました。

(神田久生)

## アコヤガイの大量斃死について

新聞などでも取り上げられていますが、真珠の主要な生産地である三重県、愛媛県でアコヤガイの稚貝を中心に大量死が発生しているとのこと。養殖業者からの情報では、へい死した貝は、外套膜が縮んで死んでしまうという現象で、海水温が低くなる冬場に起こることがありますが、このような大量死や夏の発生は初めてではないかとのことでした。また、同じ県内でも地域によってばらつきがあり、多いところでは8~9割の稚貝がへい死しているとのこと。母貝(手術貝)よりも稚貝の被害が大きいことから、来年、再来年以降の真珠養殖の際の影響が懸念されています。天候不順やウィルス、プランクトンなど様々な原因が言われていますが、まだ判明していないようです。

(2019年9月)

また、九州では、例年よりへい死が多いものの養殖に影響が出るほどではないとのことでした。

今後、原因解明など進展がありましたら再度報告いたします。

(矢崎純子)

## 展覧会紹介

### 「京都大学総合博物館 2019 年度企画展」

#### 地の宝Ⅱ「比企鉱物標本」

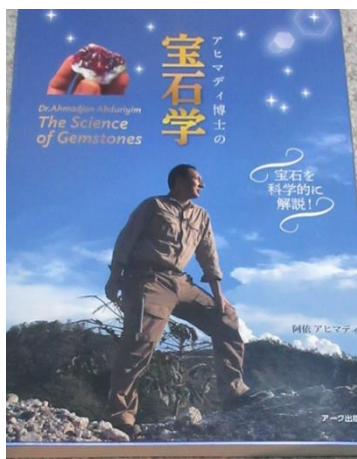
- ・開催期間：2019年7月31日～11月03日
- ・開館時間：9時30分～16時30分  
(入館は16時00分まで)
- ・休館日：月曜日・火曜日  
(平日・祝日にかかわらず)
- ・開催場所：総合博物館2階 企画展示室
- ・観覧料：一般400円/高校・大学300円  
小・中学生200円

わが国の20世紀初頭の三大鉱物標本として「和田標本」・「若林標本」・「高標本」が挙げられ、それぞれについては大会主催の見学会を実施しているので見た方も多いと思う。しかし、「比企標本」は、旧三高に奉職されていた比企先生が蒐集されたもので、それら三大標本に匹敵するコレクションと思われる。5年前にも同様な標本を公開したのでⅡとなっているが、3年前に収蔵庫で実物を身近に見た時は、その質と量に圧倒され、再び公開されることを切望していた。その膨大な標本の中でも、特に輝安鉱や水晶の日本式双晶などは、わが国最大級と言える。また、宝石を模したガラス製品も並べられており、教育用に使われたのであろうか、鉱物と宝石が身近に感じられる展示となっている。さらに、標本を入手した時のメモも添えられていて、例えば輝安鉱が50～60円（現在の20万円程度か）で売られていて、このようなものはもうないであろう、と記されていることから、当時の鉱物標本の価値がよく分かる。

なお、この展覧会は国際博物館会議（ICOM）京都大会を記念して開催された。

(林 政彦)

## 書籍紹介「アヒマディ博士の宝石学」



阿依アヒマディさん執筆の図書が発行されました。初心者にもわかりやすく楽しい内容です。

宝石は石の示す美しさを見るもので、本書にはそのきれいな写真が満載です。取り上げられている宝石は、ダイヤモンド、ルビー、サファイア、真珠を中心に、20数種類でオーソドックスな選択です。それぞれの宝石の由来、成因から鉱物学的な特徴がやさしく記載されています。なによりも参考になるのは産地情報です。著者自身が世界各地を訪問して現地の新しい情報を伝えています。宝石の一大産地であるマダガスカルについては、7ページにわたって紹介されており、鉱区の盛衰や産地の様子がよくわかります。しいて言えば、このような科学の図書は横書きがいいですね。

(神田久生)

## 新刊紹介「鉱物・宝石の科学事典」

日本鉱物科学会（編集）・宝石学会（編集協力）

朝倉出版刊



本書では前半に鉱物・宝石について項目ごとに頁単位の読み切りというかたちで解説している。鉱物は140の項目を[基礎]、[地球：深部]、[地球：表層]、[宇宙]、[応用：資源・バイオ・環境]、[応用：材料]と分け、宝石は「宝石とは」から「宝石の種類」、そして各種宝石や「顔料・岩絵具」まで46の項目に分けて解説している。後半には代表的な鉱物・宝石177の各論があり、事典としての体裁を整えている。

対象は大学生とされているが、一般の方にも十分理解ができるような内容になっている。また、鉱物・宝石と分けたため、同じダイヤモンドの解説でも、鉱物と宝石とでは見方が異なることがよく分かる内容であり、幅広い知識が得られる。特に豊かさの象徴でもある宝石についての様々な事柄を簡潔に解説しているので、多くの方に広く読まれて宝石に関する理解が深まることを期待する。

このような事典では多くの執筆者が関わるため、遅延するのはやむを得ないことかも知れないが、最初に原稿を書き上げて上梓するまで10年近く経過して

しまった。宝石の最新事情については、当会の講演等で報告されているので、そちらを参考にされたい。また、多くの執筆者には、編集委員として当会前会長の宮田雄史氏と共に私も名を連ねている関係上、ここによく出版できたことをご報告いたします。

この度、出版社のご厚意により定価（本体 16,000 円 + 税）のところ、会員特別価格 15,000 円（送料・税込）となっています。

購入を希望される会員は、次のアドレスにアクセスして直接申し込んでください。

<https://pro.form-mailer.jp/lp/23e84e3c176978>

（林 政彦）

### 日本鉱物科学会 2019 年年会・総会参加報告

2019 年 9 月 20 日から 22 日までの 3 日間、九州大学伊都キャンパスにて日本鉱物科学会 2019 年年会・総会が行われた。日本鉱物科学会は 2016 年 10 月に一般社団法人日本鉱物科学会となり、本年会は一般社団法人化して 3 回目の年会となった。

総会で 4 件の受賞講演の他、11 のセッションで 123 件の口頭発表、99 件のポスター発表があり、宝石学会(日本)会員からは「鉱物記載・分析評価」のセッションにて北脇裕士会員の「パライバ・トルマリン(1); 宝石学的定義の変遷と原産地」と江森健太郎会員の「パライバ・トルマリン(2); LA-ICP-MS を用いた組成分析と原産地鑑別への応用」の 2 件の口頭発表があった。台風が接近する中の開催で、発表の時刻を繰り上げての開催となったが、日本鉱物科学会の会員の方々の宝石学への興味の高さを伺い知ることができた。

（江森健太郎）



日本鉱物科学会総会の様子

### 第 36 回国際宝石学会(IGC36)参加報告

2019 年 8 月 24 日～9 月 3 日、フランスのナントにて第 36 回国際宝石学会(International Gemmological Conference)が開催された。国際宝石学会は 1952 年にドイツで第 1 回会議が開催されてから今回が第 36 回目となる。8 月 24 日～26 日が Pre Conference Tour、

8 月 27 日～31 日が本会議、9 月 1 日～9 月 3 日が Post Conference Tour の 3 本立てで行われた。日本からは宝石学会(日本)会員の北脇裕士会員、古屋正貴会員、江森健太郎会員の 3 名に加え阿依アヒマディ氏、大久保洋子氏が参加した。今回は、Pre Conference Tour と Post Conference Tour には参加せず、本会議のみの参加となった。本会議は各講演質疑応答を含め各 20 分で行われ、48 題の口頭発表、11 題のポスター発表があった。宝石学会(日本)会員からは、北脇裕士会員が「Current Production of Synthetic Diamond Manufacturers in Asia」、江森健太郎会員が「Be-containing nano-inclusions in untreated blue sapphire from Diego, Madagascar」の口頭発表を行った。世界中から著名な宝石研究者が集まる大きな学会であり、世界中の宝石学者達と交流をすることができた。なお、閉会式において、次回第 37 回国際宝石学会は 2021 年日本で開催することがアナウンスされ、宝石学会(日本)会員の北脇裕士会員が IGC のフラッグを受け取った。(江森健太郎)



IGC のフラッグを受け取った北脇会員

本ニュースレターの著作権は本学会が所有しますが、著名入り記事の執筆責任はそれぞれの著者にあります。

宝石学会（日本）ニュースレター（第 18 号）

2019 年 10 月 発行

編集：神田久生、渥美郁男、江森健太郎、北脇裕士、高橋泰、林政彦、古屋正貴、矢崎純子、山本亮

発行：宝石学会（日本）

〒110-0005

東京都台東区上野 3-20-8 小島ビル 6 階